Panasonic

デジタルカメラ

取扱説明書

品番 DMC-LC40

保証書別添付

MultiMediaCard™

LEICA
DC VARIO-SUMMICRON

このたびは、デジタルカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

VQT9919-1

もくじ

[見る]

[編集する]

[使いこなす]

[その他]

安全上のご注意 （必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

バッテリーを分解、加工(はんだ付けなど)、加圧、加熱、火中投入などをしない

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

●不要(寿命)になったバッテリーについては 99 ページをご参照ください。

バッテリーの端子部(⊕と⊖)に金属物(ネックレスやヘアピンなど)を接触させない

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

●ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。

バッテリーを炎天下(特に真夏の車内)など、高温になるところに放置しない

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

⚠警告

煙が出ている、異常に熱い・におい・音がするときなどは、使うのをやめ、AC アダプターを抜く

ACアダプターを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

内部に水や異物などが入ったときや外装ケースが破損したときは、使うのをやめ、AC アダプターを抜く

ACアダプターを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

自動車など、乗り物を運転しながら使わない

事故の誘発につながります。

禁　止

●歩きながら使うときも、周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

雷が鳴り出したら、本機の金属部や AC アダプターのプラグにふれない

接触禁止

落雷すると、感電につながります。

⚠警告

内部に金属物や燃えやすいものなどを入れない

火災・感電・故障につながります。

●乳幼児にご注意ください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かない

落下すると、けがや製品の故障につながります。

不安定な状態で使わない

転落すると、死亡や大けがにつながります。

●安定した足場、安定した体勢を確保してください。

ぬれた手でACアダプターを抜き差ししない

感電につながります。

●必ず、乾いた手で持ってください。

フラッシュの発光部分を手で触らない

フラッシュの発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となります。

安全上のご注意（つづき）必ずお守りください

⚠警告

水をかけたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

内部に水が入ると、火災・感電・故障につながります。

- 水が入ったときは、販売店にご相談ください。
- 雨天、降雪中、海岸、水辺など、水がかかりやすいところで使うときは、ぬらさないようにご注意ください。

AC アダプターやコードを破損させない

禁　止

無理なねじり、引っ張り、加工、重いものの下敷きなどは、コードの破損の原因となり、火災・感電につながります。

- 破損したときは、使うのをやめ、販売店にご相談ください。

分解や改造をしない

分解禁止

火災・感電・故障につながります。

- 修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。
- お手入れ時、または部品の取り外しや取り付けなどが必要な場合は、説明書の指示に従ってください。

交流100ボルト～240ボルト以外では使わない また、配線器具の仕様をこえる使いかたをしない

禁　止

たこ足配線などの場合も、過電流で発熱し、火災・故障につながります。

⚠警告

AC アダプターのプラグのほこりなどは取る

湿気などでショートや絶縁不良となり、火災・感電につながります。

●プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
●プラグは時々点検してください。

AC アダプターは、根元までしっかりと差し込む

接触不良で火災・感電につながります。

●いたんだプラグやゆるんだコンセントは、使わないでください。
●AC アダプターは時々点検してください。

⚠注意

ケーブルを持って抜かない
ケーブルを無理に曲げたり、引っ張ったりしない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

●必ず、プラグ部分を持って、まっすぐ抜いてください。

ケーブルが張った状態で使わない

ケーブルにつまずいて、転倒や機器が損傷するおそれがあります。

⚠注意

高温になるところに放置しない

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温(約60℃以上)になります。デジタルカメラ、バッテリーなどを絶対に放置しないでください。熱で外装が変形し内部部品が破損すると火災・感電のおそれがあります。

お手入れの際や長期間使わないときは、安全のため、AC アダプターを抜く

誤って内部にふれると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災につながるおそれがあります。(カード保護のため、カードも取り出しておいてください)

フラッシュ発光中に近くで発光部を直接見ない

強い光により、目をいためるおそれがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災のおそれがあります。

⚠注意

指定以外の充電池を使わない

指定以外の充電池を使うと、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

USB 接続ケーブルはUSB 端子以外には装着しない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

●必ず、USB 接続ケーブルを装着する前に、使用機器の端子が USB 用であることを確認してください。

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼすおそれがあります。

●病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない

重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

⚠注意

ACアダプターのコードを持って抜かない

コード破損の原因となり、火災・感電のおそれがあります。

●必ず、AC アダプター本体を持ってください。

充電中や使用中は、機器の上に布などをかぶせない

熱で外装ケースが変形し内部が発熱すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多いところ、振動が激しいところでは使わない

水やほこりが入ったり、振動などで内部部品が損傷すると火災・感電のおそれがあります。

●3 年に一度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください。（特に湿度が高くなる梅雨期の前に点検をすると、効果的です）
●費用についても、そのときお確かめください。

電池が液もれしたときは
• 万一、液もれが発生し、液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。
• 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

付属品

本機をご使用いただく前に、すべての付属品が入っていることをご確認ください。記載の品番は 2002 年 3 月現在のものです。

1 SD メモリーカード（16MB）
RP-SD016B

2 バッテリーパック
DMW-BL14

3 AC アダプター
DE-877AA

4 USB 接続キット

USB 接続ケーブル
K1HA05CD0001

CD-ROM

5 A/V ケーブル
K1V204C20002

6 ストラップ
VFC3868

7 レンズキャップ
VYK0B77
レンズキャップひも
VFC3733

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

使う前に

まずお読みください。

事前に必ずためし撮りをしてください。

大切な撮影(結婚式など)は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

撮影内容の補償はできません。

本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

著作権にお気を付けください。

あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

カードの画像について

他機で記録、作成した画像の本機での再生、本機で記録した画像の他機での再生はできない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

本書内の写真、イラストについて

本書内の写真は、説明のためスチル写真から合成しています。また本書内の製品姿図・イラスト・メニュー画面などは実物と多少異なりますが、ご了承ください。

参照ページについて

参照いただくページを(P00)で示しています。

本機で使用できるカードは

SD メモリーカード、マルチメディアカードです。

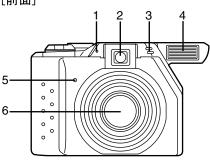
- 本書では SD メモリーカードとマルチメディアカードをカードと記載します。
- SD:SD ロゴは商標です。
- Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の商標です。
- Macintosh、MacOS は Apple Computer Inc. の登録商標または商標です。
- LEICA/ ライカはライカマイクロシステム IRGmbH の登録商標です。
- SUMMICRON/ ズミクロンはライカカメラ AG の登録商標です。
- QuickTime および QuickTime ロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は米国および他の国々で登録された商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- 本製品に付属するソフトウェアを、無断で営業目的として複製(コピー)したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。
- 本書ではバッテリーパックのことを、バッテリーと記載します。

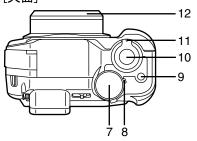
上手に撮る姿勢

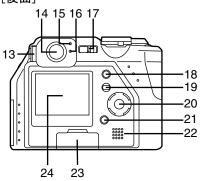
左手でレンズ左斜め下を押さえて固定し、右手でしっかり本機をささえます。

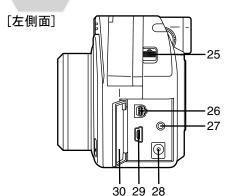
次に、カメラポジションを決めます。カメラを構える向きが被写体のアングルや背景を変化させます。被写体のどこの部分をどれくらいの大きさで撮影するのか、ズームなどを使って調整(フレーミング)します。
フラッシュ調光センサーを指などでふさがないでください。明るさを感知できません。

各部の名前

[前面]

[前面]
1 フラッシュ調光センサー（P42）
2 光学ファインダー（P26）
3 マイク（P55, P81）
4 フラッシュ発光部
5 セルフタイマーランプ（P43）
6 レンズ

[天面]

[天面]
7 撮影モードダイヤル（P30）
8 操作モードダイヤル（P30）
9 フラッシュ切換ボタン（P41）
10 シャッターボタン（P29）
11 ズームレバー（P39, P40）
12 レンズリング（P67）

[後面]

[後面]
13 視度調整ダイヤル（P26）
14 光学ファインダー（P26）
15 動作表示ランプ（P32）
16 フラッシュ/アクセスランプ（P25, P32）
17 電源 スイッチ（P26）
18 DISPLAY ボタン（P29）
19 MENU ボタン（P27）
20 十字 (▲/▼/◀/▶) キー
21 REVIEW/SETボタン（P37）
22 スピーカー（P69）
23 メモリーカード扉（P24）
24 液晶モニター（P18）

[左側面]

[左側面]

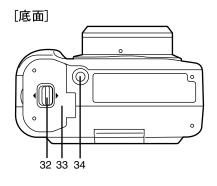
25 フラッシュオープンレバー（P41）
26 SERIAL 端子（P82）
27 A/V OUT 端子（P93）
28 DC IN 端子（P22）
29 USB 端子（5pin）（P95）
30 端子扉（P22）

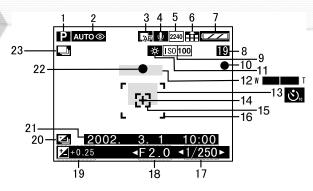
準備

[右側面]

[右側面]

31 ストラップ通し穴（P33）

[底面]

[底面]

32 バッテリー扉開閉レバー（P21）
33 バッテリー扉（P21）
34 三脚取付け穴（P34）

液晶モニターの表示

液晶モニターの画面表示は、デジタルカメラの操作状態を示しています。

[撮影時]

1 撮影モード
- A：オート(P35)
- P：プログラム AE(P44)
- A：絞り優先 AE(P45)
- S：シャッター優先 AE(P46)
- ：マクロ(P48)
- ：ポートレート(P49)
- ：風景(P50)
- ：スポーツ(P51)
- ：夜景ポートレート(P52)
- +：スポット(P53)
- ：動画(P38)

2 フラッシュモード(P41)
- AUTO ：オート
- AUTO ：赤目軽減オート
- ：強制発光
- AUTO SLOW ：赤目軽減スローシンクロ
- ：発光禁止

3 AF：スポット AF(P65)

4 ：音声記録オン(P55)

5 記録画素数(P56)
- 2240：2240 × 1680
- 1600：1600 × 1200
- 1120：1120 × 840
- 640： 640 × 480

6 クオリティ(圧縮率)(P57)
- ：ファイン(低圧縮)
- ：スタンダード(標準圧縮)
- TIFF：TIFF(非圧縮)

7 バッテリー残量(P22)
(ACアダプター使用時は非表示)

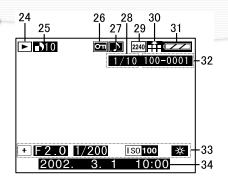
/ / /

8 残り枚数 / 時間
動画時：XXX 秒

9 ISO 感度(P64)
なし：オート
ISO100 / ISO200 / ISO400

10 ●：記録動作表示

11 ホワイトバランス(P62)
なし：オート
- ：晴天
- ：曇り
- ：白熱灯

［再生時］

：蛍光灯
：フラッシュ
：セットモード

12 ズーム（P39, P40）
（デジタルズーム設定時：）

13 セルフタイマーモード（P43）
：10 秒
：2 秒

14 ＋：スポット測光ターゲット表示（P53）

15 ：スポット AF エリア（P53, P65）

16 ：フォーカスエリア（P35）

17 シャッタースピード表示（P46）

18 絞り表示（P45）

19 露出補正（P58）

20 オートブラケット（P59）
：オート（AE）ブラケット

21 現在日時（P28）
起動時 / 撮影モード設定後 / 時刻設定後約 5 秒間表示します。

22 ●：フォーカス表示（P35）

23 ：連写（P66）

［再生時］

24 ：再生モード

25 DPOF[] プリント枚数（P73）
（白）：プリント設定済み
（緑）：スライドショー設定済み
（緑）（プリント枚数付き）：プリント/スライドショーともに設定済み

26 ：プロテクト画像（P78）

27 ：音声付き画像（P69）

28 ページ / トータル枚数

29 撮影記録画素数（P56）
5 参照

30 撮影クオリティ（圧縮率）（P57）
6 参照
：動画時

31 バッテリー残量（P22）
7 参照

32 フォルダー/ ファイル番号

33 撮影情報
[DISPLAY]ボタンを押すと表示します。

34 撮影日時

クイックガイド

機材を準備します。
- 本機
- バッテリー
- メモリーカード
- AC アダプター

電源スイッチが [OFF] になっていることを確認してください。

■ 準備

1 矢印の方向にレバーをスライドさせて、バッテリー扉を開く

2 バッテリーを本機に入れる（P21）

3 AC アダプターをカメラに接続して、バッテリーを充電する（P22）

4 メモリーカードを本機に入れる（P24）

■ 撮影

5 電源スイッチを [ON] にする（P26）

6 時計を設定する（P28）

7 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選ぶ（P30）
- 操作モードダイヤルは、撮影系（単写 [□] または連写 [⧉]）のどちらかを選んでください。

8 フラッシュオープンレバーをスライドさせて、フラッシュを出す（P41）

9 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる（P29）

10 シャッターボタンを全押しして撮影する（P29）

■ 再生

11 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする（P68）

12 ◀/▶を押して見たい画像を表示する

バッテリーを入れる

1

バッテリー扉

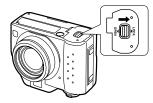
LOCK

OPEN

2 入れる場合

取り出す場合

3

[準備]

- 電源スイッチを [OFF] にしておいてください。

1 **[OPEN] の方向にレバーを動かして、バッテリー扉を開ける**

2 **ロックづめがかかるまでバッテリーを奥まで入れる**

3 **バッテリー扉を閉めて、レバーを [LOCK] の方向に戻す**

バッテリーを取り出す

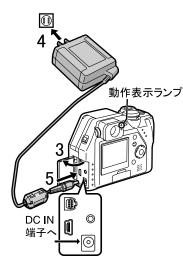
1 **[OPEN] の方向にレバーを動かして、バッテリー扉を開ける**

2 **ロックづめを矢印の方向に押して、バッテリーをまっすぐ引き抜く**

3 **バッテリー扉を閉めて、レバーを [LOCK] の方向に戻す**

お願い/ヒント

- カメラを長期間使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。(バッテリーを再度入れたときは、日付を設定しなおしてください)
- カメラからバッテリーを取り出すときは、電源スイッチを [OFF] にしてから取り出してください。
- 付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電すると使えるようになります。

1 **電源スイッチを [OFF] にする**

2 **カメラの中にバッテリーを入れる（P21）**

3 **端子扉を開ける**

4 **AC アダプターを電源コンセントに差し込む**

5 **AC アダプターの接続プラグをカメラの DC IN 端子に差し込む**

- 緑色の動作表示ランプが点滅し、充電が始まります。

6 **動作表示ランプの点滅から消灯になると満充電完了**

- 充電が終わったら AC アダプターを電源コンセントから外し、その後 DC IN 端子から接続プラグを外してください。

■バッテリーの状態について

残量表示が液晶モニターに表示されます。（AC アダプターで電源を供給しているときは表示されません）

- ：バッテリーの容量は十分です。
- ：残量がやや少なくなっています。
- ：残量が少なくなっています。
- ：バッテリーを充電、または交換してください。

■充電時間と撮影可能時間について

（撮影条件）
30秒間隔で1回記録、フラッシュを2回に1回発光
付属のSDメモリーカード（16MB）使用

	充電時間	連続撮影時間（枚数）
付属のバッテリー	約120分	液晶モニターONのとき 約150分（300枚相当）
		液晶モニターOFFのとき 約180分（360枚相当）

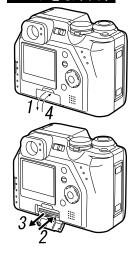
■充電する環境 / 充電エラーについて

- 充電は周囲の温度が 10 ～ 35 ℃（バッテリーの温度も同様）のところで行ってください。
- 充電が始まると、動作表示ランプが約 2 秒周期（1 秒点灯、1 秒消灯）で点滅します。
  充電開始後、動作表示ランプの点滅周期が約2秒よりも早くなった場合は充電エラーです。
  その場合、AC アダプターを電源コンセントから抜いて、バッテリーを取り出し、周囲の温度やバッテリーが低温または高温になっていないかを確認し、再度充電しなおしてください。（電源スイッチを切 / 入するだけではエラーを解除できません）再度充電してもまだ点滅周期が早くなる場合は、販売店にご相談ください。

電源コンセントにつないで使う

ACアダプターを使って電源コンセントにつなぐと、バッテリーの消耗を気にせずに使えます。接続方法は「バッテリーを充電する」と同じです。（P22）

- 使用中、本機が温かくなりますが、故障ではありません。
- AC アダプターは海外でも使うことができます。ただし、変換プラグが必要です。（P102）

カードを入れる

[準備]
- 電源スイッチを [OFF] にしておいてください。

1　**メモリーカード扉を開く**

2　**カードをカチッとなるまで奥までしっかり入れる**
- カードの向きを確認してください。

3　**メモリーカード扉を閉じる**

カードを取り出す

1　**メモリーカード扉を開く**

2　**カードを押す**

3　**カードをまっすぐ引き抜く**

4　**メモリーカード扉を閉じる**

お願い/ヒント
- カードを取り出すときは、電源スイッチを [OFF] にしてから取り出してください。
- カードの裏の接続端子部分に触れないでください。
- メモリーカード扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れなおしてください。
- カードが入らないときは、カードの向きが正しいか確認してください。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。(正規カード以外は使用しないでください)

■ カードにアクセス中は･･･

カードにアクセス(認識 / 記録 / 読み出し / 消去など)中は、赤色のフラッシュ/アクセスランプが点灯します。

フラッシュ/ アクセスランプが点灯しているときは、バッテリーを抜かないでください。また、メモリーカード扉を開けてカードを抜いたりしないでください。カードやカードの内容が破壊されたり、本体が正常に動作しなくなることがあります。

電気ノイズ、静電気、本機やカードの故障などによりカードのデータが壊れたり消失することがありますので、大切なデータは USB 端子などを使って、パソコン(P95)などにも保存してください。

■ SD メモリーカード(付属)とマルチメディアカード(別売)について

SD メモリーカードとマルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。SD メモリーカードはカードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備えています。(スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなり、戻すと可能になります)

SD メモリーカード

- RP-SD128BJ1A(128MB)
- RP-SD064B(64MB)
- RP-SD032B(32MB)
- RP-SD016B(16MB)
- RP-SD008B(8MB)

マルチメディアカード

- VW-MMC16(16MB)
- VW-MMC8(8MB)

記載の品番は2002年3月現在のものです。

- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、グレーの画面が出る場合がありますが、異常ではありません。

準備

電源を入 / 切する(ON/OFF)

■ 電源を入れる

1 電源スイッチをスライドさせて[ON] にする

- 動作表示ランプ(緑)が点灯します。

■ 電源を切る

2 電源スイッチをスライドさせて[OFF] にする

お願い/ヒント

- 撮影モードで電源を入れるときは、レンズが出ますので、レンズの前に障害物がないところで行ってください。
- 操作モードダイヤルが撮影系のとき、レンズキャップ(P33)を付けたまま電源を [ON] にすると、「レンズキャップを外して SET を押して下さい」というメッセージが表示されます。レンズキャップを外した後、[REVIEW/SET]ボタンを押してください。
- レンズが出た状態では、レンズに力を加えないでください。レンズの汚れを拭くときは、レンズが出ていない状態で行ってください。

光学ファインダーを見やすくする(視度調整)

使う前に、視力に合わせてファインダー内の AF ターゲットがよく見えるようにします。

1 視度調整ダイヤルを回して調節する

お願い/ヒント

- ズーム T 側で被写体距離が 70 cm 〜 1 m のとき、上側をパララックス補正マークに合わせると、被写体の上部が切れたりしません。正確なフレーミングが必要なときは、液晶モニターをご使用ください。

メニュー画面を操作する

メニューの一例

▼ を4回押すと

▶ を押すと

メニュー画面で、撮影や再生時の設定をします。また年月日、時刻、操作音などの各種設定も行います。液晶モニターを見ながら操作してください。
メニュー画面の各項目については、「メニュー画面の表示(P96~P97)」をご参照ください。

準備

1 [MENU] ボタンを押す

- 操作モードダイヤルが単写[ ]または連写[ ]のときは撮影系のメニューが、再生 [▶] のときは再生系のメニューが表示されます。

2 ▲/▼ で項目を選び、◀/▶ で設定する

- 手順2で最初に ▶ を押すと、「セットアップ」メニューになります。(◀ を押すと戻ります)

3 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- メニュー画面を英語表記にすることができます。「セットアップ」メニューの [言語] から [ENGLISH] を選んで設定してください。

時計を設定する

3

4

お買い上げ時は時計設定はされていませんので、撮影前に設定してください。年は 2002 年から 2099 年まで設定できます。時刻は 24 時間表示です。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押してセットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [時計設定] を選び、▶ を押す

4 ▲/▼/◀/▶ で年月日と時刻を合わせ、右端の項目で ▶ を押す

5 ▲/▼ で [年 / 月 / 日]、[日 / 月 / 年]、[月/日/年]から表示の順番を選ぶ

6 [MENU] ボタンを 2 回押す

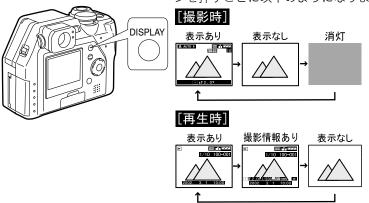
- メニュー画面が消えます。

7 一度電源を [OFF] にしてから再度 [ON] にして、設定通り表示されているか確認する

お願い/ヒント

- 「時計を設定して下さい」というメッセージが表示されたときは、再度時計設定をしてください。

液晶モニターの表示を入/切する

液晶モニターの表示は、[DISPLAY] ボタンを押すごとに以下のようになります。

- 撮影時のみ、電源を [OFF] にしても、設定は保持されています。
- デジタルズームを [ON] に設定しているときは、液晶モニターの表示は消灯しません。
- 液晶モニターの消灯状態でも、オートレビューを [ON] に設定しているときはオートレビューされます。(オートレビュー終了後、消灯します)
- 液晶モニターの消灯状態でも、撮影後、[REVIEW/SET] ボタンを押すとレビュー(P37)されます。(レビュー終了後、消灯します)

シャッターボタンについて(半押し/全押し)

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の２段階になっています。

■ 半押し(浅く押す)

ピントと露出が固定されます。

■ 全押し(下まで押し切る)

静止画が本機に取り込まれます。動画の場合は、撮影が始まります。

お願い/ヒント

- 操作音の音量調整はメニューで設定できます。(P90)
- 一度に全押しすると、手ぶれをしたり、ピントや露出が合わなかったりします。

操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルについて

■ 操作モードダイヤル
このダイヤルで、「撮影」(単写または連写)と「再生」を切り換えます。

[撮影時]

□:単写

静止画撮影時、1 回シャッターボタンを押すごとに 1 枚の画像が撮れます。動画を撮るときも単写[□]に合わせてください。

:連写(P66)

静止画撮影時、シャッターボタンを押し続けると、連続して画像が撮れます。(4 コマ / 秒、最大 8 コマ)

[再生時]

▶:再生(P68)

撮った画像を再生します。

■撮影モードダイヤル
撮影時に以下のモードから選択します。

A:オート(P35)

シャッタースピードや絞り値が自動的に決まり、撮影します。

P/A/S(以下の 3 つのモードはメニューで切り換えます(P44~P46))

P:プログラム AE(P44)

シャッタースピードや絞り値が自動的に決まり、撮影します。
オート [A] よりも細かな設定をすることができます。

A:絞り優先 AE(P45)

設定した絞り値からシャッタースピードが自動的に決まり、撮影します。

S:シャッター優先 AE(P46)

設定したシャッタースピードから絞り値が自動的に決まり、撮影します。

準備

:マクロ（P48）

50 cm より近い被写体を撮影するときに使います。レンズから 6 cm まで近づいて撮ることができます。

:ポートレート（P49）

人物のポートレートを撮影するときに、背景をぼかし、被写体を背景から際立たせて撮影できます。昼間の屋外での撮影に適しており、被写体までの距離をなるべく近くし、背景までの距離をなるべく遠くすると、より効果が出ます。

:風景（P50）

シャープで鮮やかな風景を撮影できます。10 m 以上離れた昼間の屋外での風景を撮影するのに適しています。

:スポーツ（P51）

屋外でのスポーツシーンなど、動きの速い場面を撮影するときに使います。5 m 以上離れた昼間の屋外で撮影するのに適しています。

:夜景ポートレート（P52）

美しい夜景の前に立つ人物などを撮影するときに、フラッシュを発光させると同時にシャッタースピードを遅くすることで、被写体と背景のどちらにも適度な露出を与えることができます。シャッタースピードが遅く設定されますので、手ぶれを防ぐために三脚の使用をおすすめします。またフラッシュの光の届く範囲内で使用してください。

:スポット（P53）

被写体の一部に特にピントと露出を合わせて撮影することができます。コントラストの強い光線のもとでの撮影など、限られた範囲内にスポットを合わせるのに便利です。

:動画（P38）

音声付き動画を撮影します。

ランプについて

■ 動作表示ランプ（緑）

点滅

- フォーカス動作中およびフォーカスが合っていないとき
- カードが入っていないとき
- カードの撮影残り枚数/時間がないとき
- 電池残量が少なくなったとき（ゆっくり点滅）

点灯

- 電源スイッチを [ON] にしたとき
- パソコンにデータを転送中

■ フラッシュ/ アクセスランプ（赤）

点滅

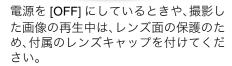
- フラッシュの充電をしているとき
- フラッシュを [発光禁止] に設定して暗い場所で撮影するとき

点灯

- カードにアクセスしているとき
- フラッシュ発光時（シャッター半押しで点灯）

ストラップ/レンズキャップを付ける

電源を [OFF] にしているときや、撮影した画像の再生中は、レンズ面の保護のため、付属のレンズキャップを付けてください。

準備

1　レンズキャップひもの先端をレンズキャップに通す

2　ひもの反対側をひもの輪の部分に通し、矢印の方向にしっかりと引っぱる

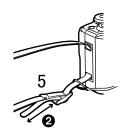
3　ストラップをストラップ通し穴に通す

4　ストラップをレンズキャップひもの小さな輪の部分 ❶ に通す

5　ストラップの先端を止め具の中に通し、引っ張って固定する

- ストラップが外れないように 2 cm 以上 ❷ 出してください。

📖 お願い/ヒント

- 本機の電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

三脚に取り付ける

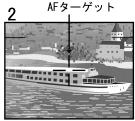
市販のカメラ用三脚を使うと、シャッタースピードが遅いときや、望遠で撮影するときでも安定した撮影ができます。

1　本機の三脚取付け穴に合わせて、カメラ台を付ける

2　カメラ台を三脚に取り付ける

お願い/ヒント

- 三脚使用時は、カードやバッテリーは取り出せません。
- 三脚の説明書もよくお読みください。

撮影してみましょう(オート撮影)

シャッターボタンを押すだけで、露出(シャッタースピードと絞り値)が自動的に決まり、撮影します。
また暗い場所でも、内蔵フラッシュを使うと撮影することができます。(P41)

[準備]
- カードを入れる(P24)
- 電源スイッチを [ON] にする(P26)
- 操作モードダイヤルを単写 [□] にする(P30)

1 撮影モードダイヤルをオート[A] にする

2 光学ファインダーから被写体を見る場合

被写体を光学ファインダー内のAF ターゲットに合わせ、シャッターボタンを半押しする

(光学ファインダー内)

液晶モニターから被写体を見る場合

被写体が液晶モニターのフォーカスエリアに入るように合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、液晶モニターのフォーカス表示[●]が点灯します。
- シャッタースピードと絞り値が自動的に決まり、液晶モニターに表示されます。
- 被写体がAFターゲットやフォーカスエリアから外れる場合は AF/AE ロック撮影(P60)を行ってください。

(液晶モニター内)

絞り値とシャッタースピード

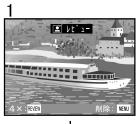
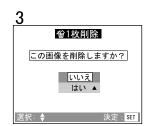
3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- オートレビュー(P89)を[ON]にしていると、撮影後約 2 秒間撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

撮影してみましょう（オート撮影）（つづき）

📖 お願い/ヒント

- オート撮影で、いろいろな設定を変更することができます。54 ページを参照してください。
- 一度に全押しすると、手ぶれをしたり、ピントが合わなかったりします。
- フォーカス表示が点滅しているときはピントが合っていませんので、再度、半押ししてピントを合わせてください。
- フォーカス表示が出てピントが合っても、シャッターボタンをはなすとピントが解除されます。再度、半押ししてください。
- 適正露出でないときは、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。
- 以下のような場合、オート撮影ではピントがうまく合いません。
  ❶ 遠くと近くのものを撮る
  ❷ よごれたガラスの向こうのものを撮る
  ❸ キラキラと光るものが周りにある
  ❹ 暗い場所を撮る
  ❺ 動きの速いものを撮る
  ❻ コントラストの少ないものを撮る
- 撮影前には、再度時計設定をすることをおすすめします。
- フラッシュの設定（P41）が [赤目軽減スローシンクロ] または [発光禁止]で、暗い場所で撮影する場合、手ぶれを防止するため三脚の使用をおすすめします。
- 撮影後は必ずフラッシュを閉じておいてください。
- パワーセーブの時間が設定されているとき（P91）は、設定時間中にカメラの操作をしないと自動的に電源が切れます。再びカメラの操作をするときは、シャッターボタンを押すか、電源スイッチを [OFF] にしてから再度 [ON] にしてください。
- 液晶モニターの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。特に暗い場所で長時間露光で撮影するときなどは、液晶モニター上は暗く映りますが、実際は明るく撮れます。
- 光学ファインダーを使って撮影する場合、ズームT側で被写体距離が70 cm～1 m のとき、上側をパララックス補正マークに合わせると、被写体の上部が切れたりしません。（P26）

撮影した画像を確認する(レビュー)

オートレビュー(P89)を [ON] にしていると、撮影直後約2秒間撮影した画像が液晶モニターに表示されますが、以下の方法で確認することもできます。

1 撮影後、[REVIEW/SET]ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が約3秒間表示されます。[REVIEW/SET] ボタンをもう一度押すと4倍に、さらにもう一度押すと8倍にズームして表示されます。ズーム中は▲/▼/◀/▶ で拡大位置を変えることができます。

1

↓

(例 :4倍のとき)

■ 撮影した画像をレビュー中に削除する

2 [MENU] ボタンを押す

3 「この画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼で [はい] を選ぶ

3

4 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 画像が削除されます。
- 一度削除された画像は復帰しません。

お願い/ヒント

- 連写[ ]のときは、最初の1画像のみレビューで見ることができます。
- 動画 [ ] のときは、レビューが使えません。
- 一度電源を [OFF] にしたり、撮影モードダイヤルや操作モードダイヤルを変えると、レビュー画面を表示させることはできません。

動画を撮影してみましょう

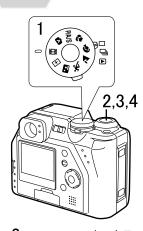
本機で動画を撮影することができます。(付属のSDメモリーカード16MBの場合、約75秒記録することができます)

[準備]
- カードを入れる(P24)
- 電源スイッチを[ON]にする(P26)
- 操作モードダイヤルを単写[▭]にする(P30)

1 撮影モードダイヤルを動画[🎞]にする

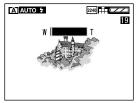
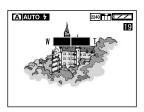
2 被写体が液晶モニターのフォーカスエリアに入るように合わせ、シャッターボタンを半押しする
- ピントが合うと、フォーカス表示[●]が画面に出ます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影を開始する
- 音声も同時に記録が始まります。

4 再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する
- 記録途中でカードのメモリーがいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

動画時に固定される機能

記録画素数	320×240	P56
内蔵フラッシュ	発光禁止 ⚡ 固定	P41
ホワイトバランス	AUTO固定	P62
ISO感度	AUTO固定	P64

📖 お願い/ヒント
- 動画撮影のとき、左表のような設定になります。
- 液晶モニターに表示される残り時間は、めやすにしてください。
- 音声なしで動画を記録することはできません。
- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、グレーの画面が出る場合がありますが、異常ではありません。
- オートフォーカス/ズームは、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 動画撮影のとき、途中で撮影が終了する場合があります。
- 本機で撮影された動画を他機で再生すると、画質、音質が劣化したり、再生できない場合があります。

大きく(望遠)または広く(広角)撮る

ズーム3倍までの範囲で、人や物を大きく撮ったり景色などを広角に撮ることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1　**被写体にカメラを向けて、ズームレバーで大きさを調整する**

大きく撮るには（望遠）：
T 側へ動かす
広く撮るには（広角）：
W 側へ動かす

2　**撮影する**

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

お願い/ヒント

- 30 cm 以上離れるとピントが合います。マクロ時は 48 ページを参照してください。

撮る・基本

さらに拡大して撮る(デジタルズーム)

2,3

デジタルズーム表示

光学3倍、デジタル2倍の最大6倍まで拡大が可能になります。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [デジタルズーム] を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

ズームの調整や撮影手順は、「大きく(望遠)または広く(広角)撮る(P39)」と同じです。

お願い/ヒント

- デジタルズームを [ON] にすると、デジタルズーム表示が出ます。
- 動画 [▦] のときは、デジタルズームが使えません。
- デジタルズームを [ON] に設定しているときは、液晶モニターの表示は消灯しません。
- デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。

内蔵フラッシュを使って撮る

暗い場所でも、内蔵フラッシュを使うと撮影することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1　フラッシュオープンレバーを上にスライドさせてフラッシュを出す

2　[⚡] を押す

- 押すごとに、以下のように切り換わります。（撮影モードによって設定できない機能があります。設定できない機能は [⚡] ボタンを押しても表示されません。左表を参照してください）

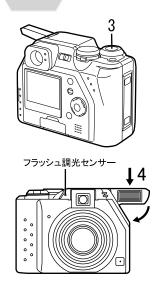
	AUTO ⚡	AUTO ◎	⚡	AUTO SLOW ◎
[A]	○	○	○	×
P	○	○	○	○
A	○	○	○	○
S	○	○	○	×
	○	○	○	○
	×	○	○	×
	○	○	○	×
	○	○	○	×
	×	×	×	○
+	○	○	○	○
	×	×	×	×

○：設定可
×：設定不可

AUTO ⚡：オート
撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。

AUTO ◎：赤目軽減オート
撮影状況に応じて自動的にフラッシュが発光し、同時に人の瞳が赤く写る（赤目現象）のをおさえます。
暗い場所で人物を撮るときなどに使います。

⚡：強制発光
フラッシュを強制的に発光させます。
逆光になる場合などの撮影に使います。

内蔵フラッシュを使って撮る(つづき)

[AUTO SLOW 赤目]:赤目軽減スローシンクロ
夜景を背景に人物を撮影するときなど、フラッシュ発光とともにシャッタースピードも長くして背景の夜景も明るく写します。同時に人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえます。

[発光禁止マーク]:発光禁止
フラッシュが出ていないときに設定されます。暗いところでもフラッシュが発光しません。
フラッシュ禁止の場所での撮影などに使います。

3 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

フラッシュを閉じる

4 カチッとなるまで矢印の方向に押す

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。

お願い/ヒント

- フラッシュが可能な範囲は、W 端時で約 30 cm 〜 4.5 m、T 端時で約 30 cm 〜 3.5 m です。(マクロのときは W 端時で約 10 cm 〜 50 cm、T 端時で約 20 cm 〜 50 cm です)
- フラッシュ調光センサーを指などでふさがないでください。明るさを感知できません。
- 夜景ポートレート[夜景ポートレートマーク]のときは、赤目軽減スローシンクロ[AUTO SLOW 赤目]に固定されます。
- 動画[動画マーク]のとき、またはフラッシュが出ていないときは、発光禁止[発光禁止マーク]に固定されます。
- 連写 [連写マーク] およびオートブラケット設定時でフラッシュが発光する際は、1 枚しか撮影できません。

セルフタイマーで撮る

セルフタイマーを設定すると、10 秒(または２秒)後に自動的に撮影されます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1 [(タイマー)] ボタンを押す

- 押すごとに以下のように変わります。

(タイマー10)(10秒) → (タイマー2)(2秒) → 非表示

(タイマー10) :セルフタイマー設定 10 秒
(タイマー2) :セルフタイマー設定２秒
非表示:セルフタイマー解除

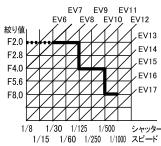
2 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーランプが点滅し、10 秒(または２秒)後に撮影されます。
- セルフタイマー設定時は、シャッターボタンを半押ししてもピントと露出は固定されませんが、全押ししたあと撮影直前に自動的に固定されます。
- 撮影前に [MENU] ボタンを押すと、セルフタイマー設定が解除されます。

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、10 秒 [(タイマー10)] しか選べません。
- 動画 [(動画)] のときは、セルフタイマーが使えません。
- 連写 [(連写)] のときは、最初の１画像のみセルフタイマー撮影されます。
- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

P 露出をカメラにまかせて撮る（プログラム AE）

3, 4

プログラム線図（ISO100設定時）

被写体の明るさからシャッタースピードと絞り値が自動設定されます。シャッタースピードと絞り値の組み合わせはオート撮影（P35）と同じですが、下記の細かな設定をすることができます。（オート撮影モードでは設定できません）

- 赤目軽減スローシンクロ［AUTO SLOW ◉］（P41）
- セルフタイマーの２秒［ ］（P43）
- クオリティ（圧縮率）のTIFF［TIFF］（P57）
- 露出補正（P58）
- オートブラケット（P59）
- 画質調整（P61）
- ホワイトバランス（P62）
- ISO 感度（P64）
- スポット AF（P65）

［準備］

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1　撮影モードダイヤルを[P/A/S]にする

2　[MENU] ボタンを押す

3　▲/▼ で [AE モード] を選ぶ

4　◀/▶ で [P] を選ぶ

5　[MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

6　撮影する

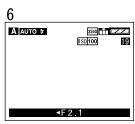
撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 暗い場所で撮影すると、露出時間が長くなり手ぶれを起こしやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出が得られないときは、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。

A 絞りを決めて撮る（絞り優先 AE）

3, 4

6

絞り値を設定すると、被写体の明るさから自動的にシャッタースピードを設定します。絞り値を変えると背景の描写に変化がつくので、背景を生かした撮影や背景をぼかした撮影などができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 撮影モードダイヤルを[P/A/S]にする

2 [MENU] ボタンを押す

3 ▲/▼ で [AE モード] を選ぶ

4 ◀/▶ で [A] を選ぶ

5 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

6 ◀/▶ で絞り値を選ぶ

7 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 絞り値の設定可能範囲は F2.0 ～ F8.0 です。
- ズーム位置によって絞り値は変化する場合があります。
- ISO 感度の [AUTO] は選べません。
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出が得られないときは、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。

S シャッタースピードを決めて撮る（シャッター優先 AE）

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさから自動的に絞り値を設定します。たとえば動いているものを撮影するときなどは高速スピードに設定してください。

[準備]

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 **撮影モードダイヤルを[P/A/S]にする**

2 **[MENU] ボタンを押す**

3 **▲/▼ で [AE モード] を選ぶ**

4 **◀/▶ で [S] を選ぶ**

5 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。

6 **◀/▶ でシャッタースピードを選ぶ**

7 **撮影する**

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

3, 4

6

S AUTO
2240
ISO 100
19
◀1/250▶

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルがシャッター優先AE[S]のとき、以下の設定はできません。
  - ・内蔵フラッシュの赤目軽減スローシンクロ [AUTO SLOW]（P41）
  - ・ISO 感度の [AUTO] 設定（P64）
- シャッタースピードの設定可能範囲は 8 ～ 1/1000 秒です。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚を使うことをおすすめします。（P34）
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出が得られないときは、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。
- 1/500 より速いシャッタースピードのとき、絞り値は限定されます。（P47）

■本機で選択できるシャッタースピードと絞りの値について

絞り優先 AE [A] またはシャッター優先 AE [S] で選択できるシャッタースピードや絞り値は下表 ① のとおりです。シャッタースピードと絞り値は共に 1/2EV ステップとなります。

- 1/500 より速いシャッタースピードのとき、絞り値は限定されます。（下表 ② 参照）

①

シャッタースピード

シャッタースピード
8
6
4
2.8
2
1.4
1
1/1.4
1/2
1/3
1/4
1/6
1/8
1/10
1/15
1/20
1/30
1/45
1/60
1/90
1/125
1/180
1/250
1/350
1/500
1/750
1/1000

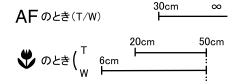
絞り値

絞り値
8.0
6.7
5.6
4.8
4.0
3.4
2.8
2.4
2.0

②

シャッタースピード	絞り値
8～1/500	2.0～8.0
1/750	5.6～8.0
1/1000	8.0

[macro icon]近距離で撮る(マクロモード)

カメラのレンズから被写体までの距離が 6 cm ～ 50 cm のときマクロ [macro icon] に設定して撮影します。

[準備]

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

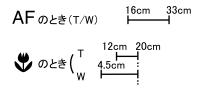
1 撮影モードダイヤルをマクロ [macro icon] にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

お願い/ヒント

- マクロ機能設定時、光学ファインダー内は撮影範囲とのズレが生じます。液晶モニターをご使用ください。
- 被写体までの距離が撮影可能範囲を超えて使用しているときは、フォーカス表示が点灯していてもフォーカスが合っていない場合があります。
- 別売のクローズアップレンズ(DMW-LC52)を使うと、さらに近距離で撮ることができます。クローズアップレンズを付けるときは、コンバージョンレンズアダプター(DMW-LA1)が必要です。

クローズアップレンズ(別売)使用時

人物を撮る(ポートレートモード)

人物のポートレートを撮影するときに、背景をぼかし、被写体を背景から際立たせて撮影できます。昼間の屋外での撮影に適しており、被写体までの距離をなるべく近くし、背景までの距離をなるべく遠くすると、より効果が出ます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1 撮影モードダイヤルをポートレート [ ] にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

- ホワイトバランス、ISO 感度は固定されます。

遠くの風景を撮る（風景モード）

遠くの風景をきれいに撮影したいときに使用するモードです。屋外で被写体までの距離が 10 m 以上のときに最適です。窓ガラス越しでも、遠くの風景を撮影することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 撮影モードダイヤルを風景 [ ] にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 被写体までの距離が 10 m 〜 ∞でピントが合います。
- ホワイトバランス、ISO 感度は固定されます。

[icon]動きの速い場面を撮る（スポーツモード）

屋外でのスポーツシーンなど、動きの速い場面を撮影するときに使います。5 m以上離れた**昼間の屋外**で撮影するのに適しています。

[準備]

• 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1　撮影モードダイヤルをスポーツ[icon]にする

2　撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

• ホワイトバランス、ISO 感度は固定されます。

夜景を背景に撮る（夜景ポートレートモード）

夜景をバックに人物などを撮影したいときに設定します。フラッシュとスローシャッターを使うことにより、背景だけでなく被写体の露出も合わせやすくなります。スローシャッターになるため、三脚の使用をおすすめします。被写体をフラッシュの届く範囲（W 端時 4.5 m、T 端時 3.5 m）で撮影してください。
ズームレバーを W 側にして撮影することをおすすめします。

[準備]
- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 フラッシュオープンレバーを上にスライドさせてフラッシュを出す

2 撮影モードダイヤルを夜景ポートレート [ ] にする

3 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュ設定は赤目軽減スローシンクロ [AUTO SLOW] に固定されます。
- ホワイトバランス、ISO 感度は固定されます。
- フラッシュを出していないときは、夜景だけをスローシャッターで撮影できます。

[+] スポットモードで撮る

被写体の一部に特にピントと露出を合わせて撮影することができます。コントラストの強い光線のもとでの撮影など、限られた範囲内にスポットを合わせるのに便利です。

[準備]
- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1　撮影モードダイヤルをスポット [+] にする

- スポットAFエリアとスポット測光ターゲット表示が画面に出ます。

2　被写体をスポット AF エリアの中央に入るように合わす

3　撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント
- フォーカスはスポット AF に固定されます。
- スポット AF エリアでの最適な露出に設定されますので、被写体によっては周りが暗く映ったり、逆に白っぽくなる場合があります。
- 被写体がスポット AF エリアから外れる場合は、AF/AE ロック撮影(P60)を行ってください。

撮影モード別設定可能機能一覧

		A	P	A	S		
デジタルズーム		○	○	○	○	○	○
フラッシュモード	AUTO ⚡	○	○	○	○	○	×
	AUTO ◉	○	○	○	○	○	○
	⚡	○	○	○	○	○	○
	AUTO SLOW ◉	×	○	○	×	○	×
セルフタイマー		○(10秒のみ)	○	○	○	○	○
音声付き静止画		○	○	○	○	○	○
記録画素数		○	○	○	○	○	○
クオリティ(圧縮率)		○(TIFF以外)	○	○	○	○	○(TIFF以外)
露出補正		×	○	○	○	○	×
オートブラケット		×	○	○	○	○	×
画質調整		×	○	○	○	○	×
ホワイトバランス		AUTO固定	○	○	○	○	☀ 固定
ISO感度	AUTO	○	○	×	×	○	○
	100/200/400	×	○	○	○	○	×
スポットAF		×	○	○	○	○	×

					+		参照ページ
デジタルズーム		○	○	○	○	×	P40
フラッシュモード	AUTO ⚡	○	○	×	○	×	P41
	AUTO ◉	○	○	×	○	×	
	⚡	○	○	×	○	×	
	AUTO SLOW ◉	×	×	○	○	×	
セルフタイマー		○	○	○	○	×	P43
音声付き静止画		○	○	○	○	×	P55
記録画素数		○	○	○	○	320×240固定	P56
クオリティ(圧縮率)		○(TIFF以外)	○(TIFF以外)	○(TIFF以外)	○	×	P57
露出補正		×	×	×	○	×	P58
オートブラケット		×	×	×	○	×	P59
画質調整		×	×	×	○	×	P61
ホワイトバランス		☀ 固定	☀ 固定	☀ 固定	○	AUTO固定	P62
ISO感度	AUTO	○	○	○	○	○	P64
	100/200/400	×	×	×	○	×	
スポットAF		×	×	×	○	×	P65

○：設定可能
×：設定不可能

音声付き静止画を撮る

2,3

4

１回、５秒間の音声が入った画像を撮ることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを単写 [▭] にする（P30）
- 撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [音声記録] を選ぶ**

3 **◀/▶ で [ON] を選ぶ**

4 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。
- 液晶モニターに [🎙] が表示されます。

5 **シャッターボタンを全押しして画像撮影する**

- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
- 音声は本機の内蔵マイクより録音されます。
- ５秒間録音後、自動的に終了します。

お願い/ヒント

- クオリティを TIFF [TIFF] に、またはオートブラケットを設定していると、音声付き静止画を撮ることができません。（P57, P59）
- 連写 [▭] のときは、音声付き静止画を撮ることができません。（P66）

撮る・応用

記録画素数を変える

４種類の記録画素数の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

2,3

撮影　セットアップ
音声記録　OFF
記録画素数　2240　1600
クオリティ
デジタルズーム　OFF
選択：　設定：　終了：MENU

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [記録画素数] を選ぶ

3 ◀/▶ で記録画素数を選ぶ

- 2240 :2240 × 1680 画素
- 1600 :1600 × 1200 画素
- 1120 :1120 × 840 画素
- 640 : 640 × 480 画素

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます

お願い/ヒント

- 動画 [ ] のときは、320 × 240 画素に固定されます。
- 少ない記録画素数を選ぶと、1 枚のメモリーカードにより多く記録できます。また、データ容量が小さいので、電子メールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに有効です。
- 多い記録画素数を選ぶと、鮮明にプリントすることができます。

クオリティ(圧縮率)を変える

３種類のクオリティ(圧縮率)の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

• 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

2,3

撮影	セットアップ	
音声記録	OFF	
記録画素数	2240	
クオリティ		
デジタルズーム	OFF	
選択:	設定:	終了: MENU

記録画素数/クオリティと記録枚数
(付属のSDメモリーカード16MBの場合)

記録画素数	クオリティ		
	ファイン	スタンダード	TIFF
2240×1680	約　7枚	約　15枚	1枚
1600×1200	約　15枚	約　29枚	2枚
1120×840	約　29枚	約　56枚	4枚
640×480	約　69枚	約113枚	13枚
動画	約75秒		

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [クオリティ] を選ぶ

3 ◀/▶ でクオリティ(圧縮率)を選ぶ

• **:ファイン(低圧縮)**
画質を優先し、高画質に記録します。

• **:スタンダード(標準圧縮)**
撮影枚数を優先し、画質は標準で記録します。

• **TIFF :TIFF(非圧縮)**
レタッチソフトなどで画像を編集・加工するときに最適です。

4 [MENU] ボタンを押す

• メニュー画面が消えます。

撮る・応用

お願い/ヒント

• 撮影モードがオート[A]のときは、TIFF [TIFF]を選ぶことができません。

• 動画 [] のときは、クオリティを変更できません。

• シーンによってモザイク状になることがあります。

• 記録枚数は付属の16MBのSDメモリーカード使用時のものです。めやすにしてください。(ファイン、スタンダード混在時は、記録枚数は変動します)

• 液晶モニターに表示される残り枚数は撮影された枚数分、減少しない場合があります。

露出を補正して撮る

被写体と背景の明るさにきわめて大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [ ] ボタンを押して [露出補正] を選ぶ

2 ◀/▶ で露出を調整する

- －２ EV から＋２ EV の範囲で 0.25EV ステップで補正できます。（EV とは Exposure Value の略で、露出量という意味であり、絞りとシャッタースピードによって CCD に与える光量のことです。
  EV0 ＝絞り値 F1.0 でシャッタースピード 1 秒の露光量
  絞り値またはシャッタースピードが上がると、EV1、EV2、EV3･･･と増します。）
- 補正状態は液晶モニターには反映されません。

3 [REVIEW/SET] ボタンを押す

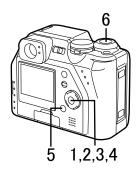
- 調整画面が消えます。

4 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [ ] のときのみ、露出を補正することができます。
- シャッタースピードと絞りの値によっては、露出補正できない範囲があります。（詳しくは P47 をご覧ください）

オートブラケットで撮る (AE ブラケット撮影)

１回シャッターを押すと、設定された露出補正量の幅に従って、カメラが露出を変えながら自動的に３画像(または５画像)撮影します。

[準備]

• 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P30)

1 [ ] ボタンを 2 回押して [オートブラケット] を選ぶ

2 ◀/▶ で露出の補正量を決める

• OFF(オートブラケットされません)
• 0.25EV、0.5EV、0.75EV、1.0EV

2

3 ▼ を押す

• ▲/▼　で手順２と４を切り換えることができます。

4 ◀/▶ で撮影枚数を選ぶ

• ３枚または５枚

4

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

6 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P35)」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

• 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [+] のときのみ、オートブラケットで撮影できます。
• クオリティを TIFF [TIFF] に、または音声記録を [ON] に設定していると、オートブラケットで撮影できません。
• クオリティをファイン [ ] に設定していると、撮影枚数が３枚に固定されます。
• フラッシュが光る場合は１枚しか撮れません。

AF/AE ロックして撮る

（例）このような構図を撮りたい場合

被写体がフォーカスエリアや AF ターゲットから外れている場合、そのままシャッターボタンを押すだけでは被写体にピントが合いません。ピントと露出を固定（AF/AE ロック）してからシャッターボタンを押すと、ピントの合ったきれいな画像が撮れます。

AF: オートフォーカス

AE：オートエクスポージャー（自動露出）

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 ピントを合わせたい被写体が液晶モニターのフォーカスエリアに入るように合わせ、シャッターボタンを半押し（AF/AE ロック）したまま保持しておく

- ピントが合うと、フォーカス表示 [●] が出ます。

2 カメラを動かし、撮りたい構図で保持していたシャッターボタンを全押しする

お願い/ヒント

- AF/AE ロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

画質を調整する（コントラスト / シャープネス / 彩度）

2

3

画質調整

コントラスト ▼ ◀ 低 標準 高 ▶
シャープネス 標準
彩度 標準

選択：　設定：　戻る： MENU

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[画質調整]を選んで▶を押す

3 ▲/▼/◀/▶ で [コントラスト][シャープネス][彩度] をそれぞれ設定する

4 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

撮る・応用

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [ ] のときのみ、画質を調整できます。

自然な色合いに調整して撮る（ホワイトバランス）

オートホワイトバランスにより、自動で自然な色合いに撮ることができますが、場面の状態や光源によっては、自動で自然な色合いに撮れないことがあります。このような場合に手動でホワイトバランスを設定します。

[準備]

• 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[ホワイトバランス]を選ぶ

3 ◀/▶ で必要なモードを選ぶ

• AUTO：自動で設定するとき
• (晴天)：屋外晴天下で撮影するとき
• (曇り)：曇天や日陰で撮影するとき
• (白熱灯)：白熱灯下で撮影するとき
• (蛍光灯)：蛍光灯下で撮影するとき
• (フラッシュ)：フラッシュの光のみで撮影するとき
• (セットモード)：手動で設定するとき（詳しい設定方法については次のページをご覧ください）

4 [MENU] ボタンを押す

• メニュー画面が消えます。

5 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

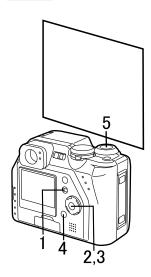
• 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [ ] のときのみ、ホワイトバランス設定ができます。

2,3

5

セットモード

白い被写体にカメラを向け
シャッターを押して下さい。

戻る: MENU

ここでは、手動でホワイトバランスを設定するセットモードについて説明します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[ホワイトバランス]を選ぶ

3 ◀/▶でセットモード[ ]を選ぶ

新しくホワイトバランスを設定したいときのみ

4 ［REVIEW/SET］ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 白い紙などにカメラを向けて、画面全体が白くなるようにし、シャッターボタンを全押しする

- ホワイトバランスが設定されます。

ISO 感度を設定して撮る

2,3

撮影 セットアップ
AE AEモード P
WB ホワイトバランス
ISO ISO感度 AUTO 100
スポットAF OFF
音声記録 OFF
記録画素数 2240
選択： 設定： 終了：MENU

ISO 感度とは、光に対する敏感さを数値で表したもので、数値が高くなるほど、暗い場所での撮影に適しています。
フラッシュを使用できない場所や暗い場所での撮影に、ISO 感度を変えることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [ISO 感度] を選ぶ

3 ◀/▶ で感度を選ぶ

- AUTO：暗い場所でフラッシュを発光禁止 [ ] にして、シャッタースピードが 1/8 より遅くなる場合、手ぶれを抑えるために、シャッタースピードを 1/8 に固定して ISO 感度を ISO200 まで上げていきます。それでも画像が暗いときは、フラッシュを使用してください。
- 100：ISO100
- 200：ISO200
- 400：ISO400

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [ ] のときのみ、ISO 感度設定ができます。
- 絞り優先 AE [A] またはシャッター優先 AE [S] のときは、ISO 感度の [AUTO] を選ぶことはできません。
- ISO 感度を高くして撮影すると、画面にノイズが出て、画質が劣化します。

スポット AF で撮る

2,3

撮影　セットアップ
AE AEモード P
WB ホワイトバランス
ISO ISO感度 AUTO
スポットAF OFF ON
音声記録 OFF
記録画素数 2240
選択：　設定：　終了：MENU

AF エリアを狭くして、被写体の一部に特にピントを合わせて撮影することができます。人物の顔のアップを撮影する際に、目にピントを合わせたい場合などに便利です。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [スポット AF] を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

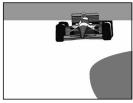
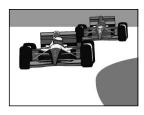
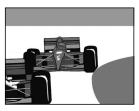
5 被写体をスポット AF エリアに合わせる

6 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P35）」と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルが P/A/S、マクロ [ ] またはスポット [+] のときのみ、スポット AF で撮影できます。
- 被写体がスポットAFエリアから外れる場合は、AF/AEロック撮影（P60）を行ってください。

連続して撮る（連写）

シャッターボタンを押し続けている間、連続して画像を撮影します。（４コマ/秒最大８コマ）

[準備]

- 撮影モードダイヤルを選んでおいてください。（P30）

1　操作モードダイヤルを連写 [] にする

2　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しし続けて連続撮影する

お願い/ヒント

- １秒に４コマ連写できるのは、シャッタースピードが 1/25 より速く、フラッシュを発光させないときです。
- フラッシュが光る場合は１枚しか撮れません。
- クオリティを TIFF [TIFF] に設定していると、連写できません。
- クオリティをファイン [] に設定していると、４コマまでしか連写できません。
- 動画 [] のときは連写できません。
- オートレビューの設定にかかわらず、連写撮影後、最初の１画像のみ液晶モニターにオートレビューされます。

コンバージョンレンズを使う

別売のテレコンバージョンレンズ(DMW-LT52)を使用すると、より望遠に、ワイドコンバージョンレンズ(DMW-LW52)を使用すると、より広角に撮ることができます。(コンバージョンレンズやクローズアップレンズ(DMW-LC52)、MC プロテクター(DMW-LMC52)を本機に付けるときは、コンバージョンレンズアダプター(DMW-LA1)が必要です)

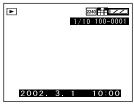
1 レンズリングを外す

2 コンバージョンレンズアダプターを付ける

3 テレコンバージョンレンズやワイドコンバージョンレンズなどを取り付ける

お願い/ヒント

- テレコンバージョンレンズを付けているとき、ズームレバーを W の方に動かすと、画面の端がトンネル状(ケラレ)になります。T の方へのみ動かしてください。
- コンバージョンレンズ使用時は、液晶モニターをご使用ください。
- コンバージョンレンズ使用時は、内蔵フラッシュは使用しないでください。
- コンバージョンレンズ使用時は、ストラップは使用しないでください。
- 水や油などがレンズにつく可能性がある場合は、別売のコンバージョンレンズアダプターと MC プロテクターを付けてレンズを保護してください。
- コンバージョンレンズをカメラに装着した状態で、強く振るなど、衝撃を与えないでください。
- 詳しくはコンバージョンレンズの取扱説明書をお読みください。

撮影した静止画を再生する

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

- 最後に撮影した画像が再生されます。

2 ◀ で前の画像を再生する ▶ で次の画像を再生する

- 押すごとに前の(次の)画像が再生されます。
- 最後に撮影した画像の次は、最初の画像になります。

早送り/早戻しする

再生中に ◀/▶ を押し続ける

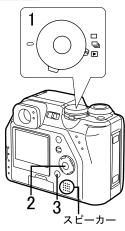
▶:早送り

◀:早戻し

- ファイル内の番号が増 / 減していきます。◀/▶ を離すとその番号の画像が表示されます。

お願い/ヒント

- 本機は電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格 DCF(Design rule for Camera File system) に準拠しています。
- 本機で再生できるファイル形式は JPEG です。(JPEG 形式でも再生できないものもあります)
- 他機で撮影された静止画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 規格外のファイルを再生したときはフォルダー/ファイル番号が[—]で表示され、画面が黒くなります。

音声付き静止画を再生する

■スピーカーの音量調整

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 ◀/▶で音声アイコン[♪]が付いた画像を選ぶ

3 [REVIEW/SET] ボタンを押して音声を再生する

• スピーカーから音声が聞こえます。

■ スピーカーの音量調整について

以下の手順で、スピーカーの音量を変えることができます。

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 [MENU] ボタンを押す

3 ▶ を押して、セットアップメニューにする

4 ▲/▼ で [スピーカ音量] を選ぶ

5 ◀/▶ で音量を調整する

6 [MENU] ボタンを押す

• メニュー画面が消えます。

見る

９枚ずつ画像を表示する（マルチ再生）

１画面に９枚の画像を表示することができます。

[準備]

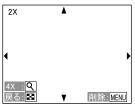
操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1　画像再生中に、ズームレバーを [▦] の方に動かす

• マルチ再生（９コマ）になります。

2　▲/▼/◀/▶ で画像をおくる

• 1 画面表示に戻るときは [🔍] の方に動かしてください。黄色で表示された番号の画像が 1 画面表示されます。

再生画面を拡大する(再生ズーム)

再生中の画像を拡大して表示することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1　画像再生中に、ズームレバーを [🔍] の方に動かす

- ズームレバーを [🔍] の方に動かすごとに、ズーム倍率が大きくなります。
- ズームレバーを[▦]の方に動かすごとにズーム倍率が小さくなります。
- ▲/▼/◀/▶ で拡大位置を変えることができます。

■ 再生ズーム中に画像を削除するには

[MENU] ボタンを押してください。
「この画像を削除しますか?」というメッセージが出たら、▲/▼ で「はい」を選び、[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

見る

📖 お願い/ヒント

- 動画再生画面は、拡大することができません。
- 再生ズームは、拡大するほど画質が劣化します。
- 他機で撮影した画像を再生ズームできない場合があります。

撮影した動画を再生する

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 ◀/▶で動画アイコン[▦]が付いたファイルを選ぶ

3 [REVIEW/SET] ボタンを押して動画を再生する

- ▼ を押すと停止します。

動画アイコン

十字キー(▲/▼/◀/▶)に対応しています

早送り/早戻しする

動画再生中に ◀/▶ を押し続ける

▶：早送り

◀：早戻し

- 離すと通常再生に戻ります。

一時停止する

動画再生中に ▲ を押す

- もう一度 ▲ を押すと一時停止が解除されます。

お願い/ヒント

- 本機で再生できるファイル形式はQuickTime Motion JPEG です。
- パソコンや他機で記録されたQuickTime Motion JPEGファイルを本機で再生できない場合があります。
- 他機で撮影された動画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 大容量のメモリーカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。

プリント情報をカードに書き込む（DPOF プリント設定）

2,3

4

プリント枚数設定表示（白）

6

プリントしたい画像、プリント枚数などの情報（DPOF プリントデータ）をカードに書き込むことができます。
DPOF とは Digital Print Order Format の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるようにカードのメモリー画像にプリント情報などを付加できるようにしたものです。

[準備]

• 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1 枚設定

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[DPOF]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[1 枚設定]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

• DPOF プリント設定済みの画像の枚数変更だけをする場合、この手順は不要です。

6 ▲/▼ でプリント枚数を選ぶ

• プリント枚数は 1 〜 99 枚まで設定できます。

7 [MENU] ボタンを 2 回押す

• メニュー画面が消えます。

1 枚設定解除

「1 枚設定」の手順 1 〜 5、7 を行ってください。

プリント情報をカードに書き込む（DPOF プリント設定）（つづき）

2,3

4

5

複数設定/解除

一度に設定できるのは 50 枚までです。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[DPOF]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[複数設定]を選び、▶を押す

4 ◀/▶で画像を選ぶ

5 ▲/▼でプリント枚数を選ぶ

- プリント枚数は 1 ～ 99 枚まで設定できます。

6 手順 4 と 5 をくりかえし、最後に [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 複数枚の画像が一度に DPOF 設定されます。

お願い/ヒント

- DCF 規格に準拠していないファイルは DPOF プリント設定できません。（DCF とは Design rule for Camera File system の略で、（社）電子情報技術産業協会のファイルシステム規格に準拠した記録方式です）
- 本機で DPOF プリント設定すると、他機で設定されたDPOF情報は上書きされます。

2,3

（例：全解除を選んだ場合）

4（全解除）

4（インデックス）

全解除

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[DPOF]を選び、▶を押す

3 ▲/▼ で [全解除] を選び、▶ を押す

4 「全てのDPOFマークを解除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- すべての DPOF プリント設定が解除されます。

インデックス設定/解除

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[DPOF]を選び、▶を押す

3 ▲/▼ で [インデックス] を選び、▶ を押す

4 「インデックスプリントを設定しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ

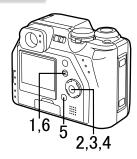
- すでにインデックスが設定されている場合は、▲/▼ で [設定][解除] を選んでください。

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- すべての画像が設定/解除されます。

画像を削除する

2,3

（例：1枚削除を選んだ場合）

4（1枚削除）

4（複数画像削除）

カードに記録された画像を削除します。
一度削除した画像は復帰しません。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。
- プロテクトされていると、画像を削除できません。プロテクト設定を解除しておいてください。(P78)

1 枚削除

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [削除] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で [1 枚] を選び、▶ を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 選択した画像が削除されます。

6 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

複数画像削除

一度に削除できるのは 50 枚までです。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [削除] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼で[複数画像]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選び、▲ で設定する

- 設定した画像に [🗑] が表示されます。▼ を押すと設定が解除されます。

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 選択された複数枚の画像が一度に削除されます。

6 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

2,3

4

全画像削除

全ての画像を削除しますか？

いいえ
はい

選択:
決定 : SET

全画像削除

一度削除した画像は復帰しません。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [削除] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で [全画像] を選び、▶ を押す

4 「全ての画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- プロテクトされた画像以外のすべての画像が削除されます。

カードの画像をプロテクトする

2,3

カードに記録した大切な画像を誤って削除しないように、プロテクトすることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1 枚設定/解除

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [プロテクト] を選び、▶を押す**

3 **▲/▼ で [1 枚設定] を選び、▶ を押す**

4 **◀/▶ で画像を選ぶ**

5 **[REVIEW/SET] ボタンを押す**

6 **[MENU] ボタンを２回押す**

- メニュー画面が消えます。

複数設定/解除 / 全解除

手順は「プリント情報をカードに書き込む（DPOF プリント設定）」（P73 ～ P75）の同名の項目をお読みください。

お願い/ヒント

- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。
- プロテクトされたファイルを削除しようとすると、「この画像はプロテクトされています」または「削除できない画像があります」というメッセージが表示され、削除できません。ファイルを削除したいときは、プロテクト設定を解除してください。
- プロテクト設定は本機でのみ有効です。
- プロテクト設定をしていなくても、SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、画像の削除はできません。

スライドショーを見る(自動再生)

2,3

(例:全画像を選んだ場合)

4

(例:全画像を選んだ場合)

6

カード内の指定した画像を自動的に連続させて見ることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[スライドショー]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[全画像]/[DPOF]を選び、▶ を押す

- 全画像:全ての画像を見る
  DPOF:DPOF スライドショー設定した画像を見る

4 ▲/▼/◀/▶ で [再生間隔][音声][DPOF設定][全解除]を設定する

- 再生間隔:1、2、3、5 秒の中から設定できます。
- 音声:[ON]または[OFF]を設定できます。[ON] を選ぶと、音声付き静止画をスライドショーさせることができます。
- DPOF 設定(手順3で[DPOF]を選んだときのみ):スライドショーさせたい画像を選ぶことができます。
- 全解除(手順3で[DPOF]を選んだときのみ):スライドショー設定を解除できます。

5 ▲/▼ で[スライドショー]を選ぶ

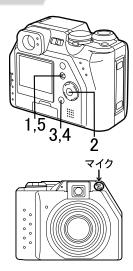
6 ▶ を押す

- スライドショーが始まります。
- [MENU] を押すと終了します。

スライドショーを見る(自動再生)(つづき)

お願い/ヒント

- スライドショーで動画再生できません。
- 付属のCD-ROMのソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集されたSDスライドショーを本機で見ることができます。101 ページをお読みください。
- 付属のソフト[SD Viewer for DSC]でDPOF設定された画像は本機ではDPOFスライドショーできません。DPOFスライドショー設定は本機で行ってください。
- 本機で DPOF スライドショー設定すると、他機で設定された DPOF 情報は上書きされます。

撮影した後に音声を入れる(アフレコ)

撮影した画像に、後から 10 秒までのナレーションを入れることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。
- 音声を入れたい画像を表示しておいてください。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [アフレコ] を選び、▶ を押す**

3 **[REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を開始する**

- すでに音声が入っている場合、アフレコすると元の音声はなくなります。
- すでに音声が入っている場合、「音声データを上書きしますか?」というメッセージが出ます。▲/▼ で [はい] を選び、[REVIEW/SET] ボタンを押して録音を開始してください。

4 **[REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を終了する**

- [REVIEW/SET] ボタンを押さなくても、約 10 秒間録音すると、自動的に終了します。

5 **[MENU] ボタンを 2 回押す**

- メニュー画面が消えます。

2

3

お願い/ヒント

- TIFF[TIFF] に設定された画像はアフレコできません。
- 動画をアフレコすることはできません。

使いこなす

携帯電話（au cdmaOne）/feel H" につなぐ

撮影した画像を携帯電話（KDDI 社の au cdmaOne）/ feel H" の壁紙や着信画面、Eメールの添付用の画像として自動的にリサイズ（小さくする）して別売のシリアルケーブル、DMW-PC1（携帯電話用）/DMW-PH1（用）を使って携帯電話（au cdmaOne）/ feel H" へ転送することができます。

■ 本機側の操作

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする（P30）

■ 携帯電話 / feel H" 側の操作

- 画像を携帯電話 / feel H" に取り込むときは、詳しくは、お使いの携帯電話 / feel H" の取扱説明書の外部機器接続の項目をご覧ください。（画像は携帯電話 / feel H" 側の操作により、指定サイズに変更されます）

📖 お願い/ヒント

- 携帯電話 / feel H" の適用機種についてはパナソニックのホームページ（http://www.panasonic.co.jp/products/dc/）をご覧ください。

携帯電話/feel H"に添付する画像をカードに書き込む(携帯画像)

2,3

5

携帯電話 / feel H" へ SD メモリーカード経由で受け渡しするための画像(320 × 240 画素)を作成します。
この機能を使うと DPOF 自動送信ファイル(AUTXFER.MRK)が SD メモリーカードに作られます。携帯電話/ feel H" の DPOF 機能によりファイル内の画像が自動的に選択され、簡単にメールに添付することができます。作成された画像は、SD メモリーカードスロット付きの一部の携帯電話 / feel H" (2002 年 3 月現在の対応機種は KX-HS100、KX-HF300、KX-HS110、KX-HV200)で使えます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[画像作成]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

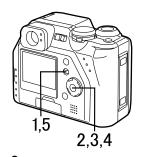
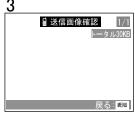
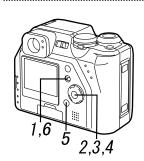
- 選択した画像が設定されます。
- 必要枚数分繰り返してください。(最大 9 枚まで)

6 [MENU] ボタンを押す

- 約 2 秒間設定した画像が表示され、メニュー画面に戻ります。もう一度 [MENU] ボタンを押すと、メニューが消えます。
- 設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。

携帯電話/feel H”に添付する画像をカードに書き込む(携帯画像)(つづき)

3

4

送信用画像を確認する

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[画像確認]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を送り、確認する

5 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

送信用画像を削除する

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[画像削除]を選び、▶を押す

4 「送信フォルダ内の全ての画像を削除しますか?」というメッセージが出ると ▲/▼ で [はい] を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 送信フォルダ内の全ての画像が削除されます。

6 [MENU] ボタンを押す

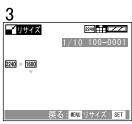
- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 携帯電話添付用画像の画像サイズは[320 × 240]画素に設定されています。
- 設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。
- 他機で撮影した画像から携帯画像を作成できない場合があります。

画像のサイズを変える(リサイズ)

2

3

撮影した画像のサイズを小さくすることができます。E メール添付やホームページ用に画像容量を小さくしたいときなどにこの機能の使用をおすすめします。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。
- サイズを変えたい画像を表示しておいてください。(ただし、サイズが [640 × 480] 画素以下の画像、およびアスペクト比が 4：3 以外の画像はリサイズできません)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [リサイズ] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼で変更したいサイズを選ぶ

- 1600 ：1600 × 1200
- 1120 ：1120 × 840
- 640 ：640 × 480

4 [REVIEW/SET] ボタンを押してサイズを決定する

5 「元の画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼で [はい] または [いいえ] を選ぶ

6 [REVIEW/SET] ボタンを押す

7 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

使いこなす

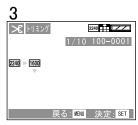
お願い/ヒント

- 他機で撮影した画像は、リサイズできない場合があります。
- 動画や TIFF の画像をリサイズしたり、画像のサイズを大きくすることはできません。

画像を切り抜く(トリミング)

2

3

5

必要な部分のみを切り抜いて(トリミング)、引きのばすことができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。
- トリミングしたい画像を表示しておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[トリミング]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ でサイズを選ぶ

- 1600 :1600 × 1200
- 1120 :1120 × 840
- 640 : 640 × 480

4 [REVIEW/SET] ボタンを押す

5 ▲/▼/◀/▶ で画像を動かす

6 [REVIEW/SET] ボタンを押して決定する

7 「元の画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] または [いいえ] を選ぶ

8 [REVIEW/SET] ボタンを押す

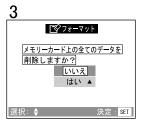
9 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

画像を切り抜く(トリミング)(つづき)

お願い/ヒント

- 他機で撮影した画像は、トリミングできない場合があります。
- 動画や TIFF の画像をトリミングしたり、画像のサイズを大きくすることはできません。
- 音声付き画像や画像のサイズが [640 × 480] 画素の場合はトリミングできません。

カードをフォーマットする

通常、カードはフォーマット(初期化)する必要はありません。「メモリーカードエラー」とメッセージが表示された場合にフォーマットしてください。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[フォーマット]を選び、▶を押す

3 「メモリーカード上の全てのデータを削除しますか?」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ

4 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- フラッシュ/ アクセスランプが点灯し、カードがフォーマットされます。
- フォーマットすると、記録されていた画像やその他のデータを復帰させることはできません。

お願い/ヒント

- フォーマット中は電源を切らないでください。
- パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用する場合、もう一度本機でフォーマットしてください。
- カードがフォーマットできないときはお買い上げの販売店へご連絡ください。

液晶モニターの明るさを調整する

2,3

1. [MENU] ボタンを押す
2. ▶ を押して、セットアップメニューにする
3. ▲/▼ で [液晶明るさ] を選ぶ
4. ◀/▶ で明るさを調整する
5. [MENU] ボタンを押す
   - メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 液晶の明るさは、電源を切ると初期状態に戻ります。

撮影した画像を自動で表示させる（オートレビュー設定）

2,3

オートレビューを [ON] にして撮影すると、撮った画像が自動的に液晶モニターに約2秒間表示されます。

[準備]
操作モードダイヤルを撮影系（単写 [▭] または連写 [▭]）にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [オートレビュー] を選ぶ

4 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

5 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 連写 [▭] またはオートブラケットのときは、最初の1画像のみオートレビューで表示されます。
- オートレビューを [ON] に設定しても、動画 [▭] のときは、オートレビューされません。
- 連写 [▭]、オートブラケット、TIFF、音声付き静止画を記録時はオートレビューは [ON] になります。

操作音の音量を設定する

2,3

メニュー操作をしたときや、シャッターボタンを半押ししたときなどの電子音の音量を設定することができます。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [操作音] を選ぶ

4 ◀/▶ で操作音の音量を選ぶ

5 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

省電力モードに設定する（パワーセーブ）

一定時間カメラの操作をしなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [パワーセーブ] を選ぶ

4 ◀/▶ で設定時間を選ぶ

- ２分
- ５分
- １０分
- OFF（パワーセーブしません）

5 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- パワーセーブモードを解除するには、シャッターボタンを押すか、または電源スイッチを [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。
- AC アダプター使用時は、パワーセーブが働きません。
- パワーセーブが働いたり、バッテリーの残量がなくなり充電を行う場合は、必ず本機の電源スイッチを [OFF] にしてから、AC アダプターの接続プラグを本機の DC IN 端子に差し込んでください。電源スイッチが [ON] の状態で AC アダプターを接続すると、誤作動する場合があります。

ファイル番号をリセットする

2,3

4

本機はファイル番号をカメラ側で連続する通し番号でセットして記録しますので、複数のカードを使用したとき、カード内の画像のファイル番号が連続していない場合があります。新しいカードに記録するときにファイル番号を0001 から記録したいときは、この機能を使用してください。

[準備]
操作モードダイヤルを撮影系（単写[ ] または連写 [ ]）に合わせておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

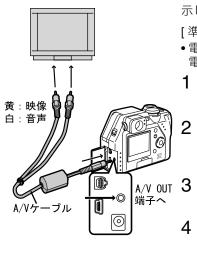
3 ▲/▼ で[番号リセット]を選び、▶ を押す

4 「カメラ内のファイル番号をリセットしますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押して決定する

6 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

テレビに画像を映して再生する

付属の A/V ケーブルを使ってカメラとテレビを接続すると、テレビに画像を表示して再生ができます。

[準備]

- 電源スイッチを [OFF] にし、テレビの電源も切っておいてください。

1 カメラの A/V OUT 端子に A/V ケーブルを確実に接続する

2 テレビの映像入力端子と音声入力端子に A/V ケーブルを接続する

3 テレビの電源を入れ、「外部入力」にする

4 電源スイッチを [ON] にし、操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

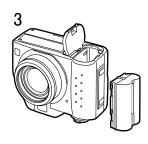
- 画像がテレビに表示されます。

■撮ったものを海外で見るには

その国のテレビ方式に応じて、メニュー画面の [➡ ビデオ出力] の項目で、[NTSC] または [PAL] を選んでください。

お願い/ヒント

- 付属の専用ケーブル以外は使わないでください。
- 操作モードダイヤルを再生 [▶] にしているときのみ、テレビに画像を表示させることができます。
- テレビの説明書もお読みください。

使い終わったら

デジタルカメラを使い終わったら、以下の手順の後、別売のソフトケース（DMW-CL40）などに入れて保管することをおすすめします。

1 **電源スイッチを [OFF] にする（P26）**

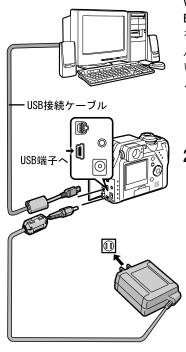
2 **カードを取り出す（P24）**

3 **バッテリーを外す（P21）**

4 **レンズキャップを付ける（P33）**

お願い/ヒント

- カメラを長期間使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。（バッテリーを再度入れたときは、時計を設定しなおしてください）

パソコンと接続する

[準備]
Windows 98またはWindows 98 Second Edition でご使用の場合のみ、付属の CD をパソコンから起動し、USB ドライバーをインストールしておいてください。

1 本機にメモリーカードを入れ、操作モードダイヤルを再生 [▶] にし、電源スイッチを [ON] にする

2 付属の USB 接続ケーブルで、本機とパソコンを接続する

Windowsの場合

[マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

- 初めて接続したときは、Windows のプラグアンドプレイにより、デジタルカメラを認識するために必要なドライバーが自動的にインストールされ、その後 [マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

Macintoshの場合

画面上にドライブが表示されます。

お願い/ヒント

- 接続時は、本機の電源として AC アダプターを使うことをおすすめします。
- 接続時は、A/V OUT 端子から映像や音声は出力されません。
- 接続時は、液晶モニターの表示は [OFF] になり、動作表示ランプが点灯します。また、カードにアクセス中はフラッシュ/アクセスランプも点灯します。
- 詳しくは別冊の「USB 接続キット編」をお読みください。

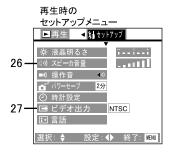
メニュー画面の表示

撮影系メニュー画面

- 左図に番号記載のない項目は、同名のものを参照してください。

1　音声記録（P55）
2　記録画素数（P56）
3　クオリティ（P57）
4　デジタルズーム（P40）
5　AE モード（P44 ～ P46）
6　ホワイトバランス（P62）
7　ISO 感度（P64）
8　スポット AF（P65）
9　画質調整（P61）

10 液晶明るさ（P88）
11 オートレビュー（P89）
12 操作音（P90）
13 パワーセーブ（P91）
14 番号リセット（P92）
15 時計設定（P28）
16 言語（P27）

再生時の
セットアップメニュー

再生系メニュー画面

- 左図に番号記載のない項目は、撮影系メニューの同名のものを参照してください。

17 削除（P76）

18 プロテクト（P78）

19 DPOF（P73）

20 スライドショー（P79）

21 アフレコ（P81）

22 携帯画像（P83）

23 リサイズ（P85）

24 トリミング（P86）

25 フォーマット（P87）

26 スピーカ音量（P69）

27 ビデオ出力（P93）

使用上のお願い

デジタルカメラについて

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(電子レンジ、テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響をおよぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプターを一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影映像や音声が悪くなることがあります。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないようにする また海水などでぬらさないようにする

- 砂やほこりは、本機の故障につながります。
- 万一海水がかかったときは、よく絞った布でふき、その後、乾いた布でふいてください。

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

- 強い衝撃が加わると、外装ケースがこわれ、故障します。

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを外しておくか、電源プラグをコンセントから抜いておきます。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装のはげるおそれがあります。
- 本機は、やわらかい、乾いた布でほこりをふいてください。よごれがひどいときは、台所用中性洗剤を水でうすめ、布をひたし、よく絞ってよごれをふき、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを外す

- 付けたままにしておくと、デジタルカメラの電源スイッチが [OFF] であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- 使用したい時間の3〜4倍のバッテリーを準備してください。スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなります。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにACアダプターも忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグも必要です。(P102)

バッテリーの端子部にほこりなどが付かないよう、ビニール袋などに入れて保管する

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本体に付けると、本体をいためます。

使用後は必ずカードを取り出し、バッテリーを外す、または、電源プラグをコンセントから抜く

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
  (推奨温度：15℃〜25℃、推奨湿度：40％〜60％です)
- 極端に低温、高温になるところで保管すると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 高温・多湿、油煙の多いところでは、端子がさびたりして故障の原因となります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、カメラから取り外して再保管することをおすすめします。

不要(寿命になったなど)バッテリーは火中などに投入しない

- 加熱や火中などに投入すると、破裂するおそれがあります。
- バッテリーには、寿命があります。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池(バッテリー)の届け先

- 下記の充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
- お買い上げの販売店または最寄りの松下電器の販売店・サービスセンター・販売会社へ。もしくは(社)電池工業会にご確認ください。
  (ホームページ:http://www.baj.or.jp)

使用上のお願い(つづき)

使用済み充電式電池(バッテリー)の取り扱い

- 端子部をセロハンテープなどでおおい、リサイクル箱へ
- 分解しないでリサイクル箱へ

リチウムイオン電池使用

つゆつきについて

夏に冷蔵庫から出したビンなどに、しばらくすると水滴がつきます。この現象が本機に起こった場合が「つゆつき」です。
つゆつきが起こっていると撮影できなくなります。つゆつきを起こさない心がけと、起こったときの処置を正しく守ってください。

つゆつきが起こる原因は
下記のように温度差、湿度差があると起こります。

- 寒い屋外から暖かい屋内に持ち込んだとき
- 冷房のきいた車などから車外へ出したとき
- 寒い部屋を急に暖房したとき
- エアコンなどの冷風がデジタルカメラに直接当たっていたとき
- 湿気がたち込めるなど湿度の高いところ

つゆつきが起こった場合の処置
電源スイッチを [OFF] にし、1 時間ほどそのままにしておいてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

メモリーカードについて

フラッシュ/アクセスランプが点灯中(カードにアクセス中)は、カード扉を開けてカードを抜いたり、電源を切らない、また振動や衝撃を与えない。
カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない。また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない。

- カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。

使用後は、必ずカードを取り出して、保管する

- 使用後や保管、持ち運び時は収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 「しばらくお待ちください」が表示されているときは絶対に、電池を取り外したり、AC アダプター(付属)を抜いたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データの破壊および、故障の原因になります。

液晶モニターについて

- 温度差が激しい場所では、液晶モニターにつゆがつくことがあります。柔らかい乾いた布でふいてください。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本体が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。
- 液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯(赤や青、緑の点)することがあります。これは故障ではありません。液晶モニターの画素については 99.99%以上の高精度管理をしておりますが 0.01%以下で画素欠けするものがあります。

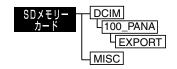
内蔵フラッシュについて

- 使用しないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- 本体を保管するときは、必ず電源スイッチを [OFF] にして、フラッシュを閉じておいてください。

SD スライドショーについて

付属の CD-ROM のソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集された SD スライドショーのデータが記録されているカードを本機に入れ、再生モードで電源を入れると、「SD スライドショーを開始しますか？」というメッセージが出ます。「はい」を選んでREVIEW/SETボタンを押すと、SD スライドショーが始まります。通常再生にするときは「いいえ」を選んで REVIEW/SET ボタンを押してください。

フォルダー構造について

データを記録したカードをパソコンに入れると、フォルダーが下図のように表示されます。

- 100_PANA フォルダーなどには最大で999枚の画像を記録できます。
- MISC フォルダーには DPOF 設定されたファイルが記録されます。
- EXPORT フォルダーには携帯画像のファイルが記録されます。

その他

海外で使う

撮ったものを海外で見るには

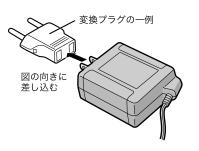
再生系メニュー画面から[ビデオ出力]を選び、設定すると、日本と同じカラーテレビ方式(NTSC)を採用している国、地域と、PAL 方式を採用している国、地域でテレビに接続して見ることができます。

日本と同じ NTSC 方式を採用している国、地域

- アメリカ合衆国
- アンチグア・バーブーダ
- イエメン（一部地域）
- 英領バーミューダ諸島
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グァテマラ
- グァム島
- グレナダ
- コスタリカ
- コロンビア
- ジャマイカ
- スリナム
- セントクリストファー・ネイビス
- セントビンセント・グレナディーン諸島
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ共和国
- ドミニカ国
- トリニダード・トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バハマ
- バルバドス
- フィジー
- フィリピン
- プエルトリコ
- 米領サモア
- ベトナム（一部地域）
- ベネズエラ
- ベリーズ
- ペルー
- ボリビア
- ホンジュラス
- マーシャル諸島
- マリアナ諸島
- ミクロネシア連邦
- ミャンマー
- メキシコ

ACアダプターは、全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)でご使用いただけるように設計しております。
市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがあります。

AC アダプター(付属)を海外で使用するには

ACアダプターは、自動で全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、次のページの表を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。充電のしかたは、国内と同じです。

主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米					
カナダ	A	アメリカ合衆国	A		
ヨーロッパ・旧ソ連地域					
アイスランド	C	ノルウェー	C	アイルランド	C
ハンガリー	C	イギリス	B.BF	フィンランド	C
イタリア	C	フランス	C	オーストリア	C
ベルギー	C	ギリシャ	C	ポーランド	B.C
オランダ	C	ポルトガル	B.C	スイス	B.C
ルーマニア	C	スウェーデン	C	ロシア	C
スペイン	A.C	ウクライナ	C	デンマーク	C
ベラルーシ	C	ドイツ	C	カザフスタン	C
アジア					
インド	B.C	モルジブ	B	インドネシア	B.C
バングラデシュ	C	シンガポール	B.BF	フィリピン	A.C.S
タイ	A.BF.C	ベトナム	A.C	大韓民国	A.B.C
中華人民共和国	A.B.BF.C.S	スリランカ	B	マカオ特別行政区	B.C
香港特別行政区	B.BF	マレーシア	B.BF.C	ネパール	C
モンゴル	C	パキスタン	B.C	台湾	A
オセアニア					
オーストラリア	S	トンガ	S	グァム島	A
ニュージーランド	S	タヒチ	C	フィジー	S
中南米					
アルゼンチン	BF.C.S	バハマ	A	コロンビア	A
プエルトリコ	A	ジャマイカ	A	ブラジル	A.C
チリ	B.C	ベネズエラ	A	ハイチ	A
ペルー	A.C	パナマ	A	メキシコ	A
中東					
イスラエル	C	クウェート	B.C	イラン	C
ヨルダン	B.BF				
アフリカ					
アルジェリア	A.B.BF	ザンビア	B.BF	エジプト	B.BF.C
タンザニア	B.BF	カナリア諸島	C	南アフリカ共和国	B.C
ギニア	C	モザンビーク	C	ケニア	B.C
モロッコ	C				

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

その他

警告表示

確認/警告内容を液晶モニターに文章で表示します。

メモリーカードがありません
メモリーカードを入れてください。

このメモリーカードはプロテクトされています
メモリーカードの書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。

表示できる画像がありません
画像を記録する、または画像が記録されたメモリーカードを入れてから再生してください。

メモリーカード残量がありません
新しいカードに取りかえる、または不要なデータを削除してください。

レンズキャップを外して SET を押して下さい
レンズキャップを外し、[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

メモリーカードエラー
メモリーカードへのアクセスに失敗しました。
もう一度カードを入れてください。

リードエラー
データの読み込みに失敗しました。もう一度再生してください。

ライトエラー
データの書き込みに失敗しました。カードを抜くか、一度電源を [OFF] にしてから、再度 [ON] にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。

時計を設定して下さい
お買い上げ時や長期間保管していた場合などに表示されます。再度時計設定をしてください。

この画像はプロテクトされています
画像のプロテクトを解除してから削除や上書きをしてください。

この画像は削除できません / 削除できない画像があります
画像のプロテクトを解除してから削除してください。

設定枚数をこえました
複数削除、プロテクト、DPOF プリント設定で 1 度に設定できる枚数を超えています。一旦決定してから、再度続いている設定をしてください。

この画像は設定できません / 設定できない画像があります
DCF 規格に準拠していない画像は DPOF 設定できません。

メモリーカードエラー・フォーマットしますか
本機では認識できないフォーマットです。本機でフォーマットしなおしてください。

故障かな？と思ったら

1:　電源が入らない。

1-1: バッテリーや AC アダプターは正しく接続されていますか？接続を確認してみてください。

1-2: バッテリーは十分に充電されていますか？十分に充電されたバッテリーをお使いください。

2:　電源が入っていてもすぐに切れる。

2-1: バッテリーが消耗していませんか？バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを付けてください。

2-2: つゆつきになっていませんか？寒いところから暖かいところにデジタルカメラを持ち込んだときなど、内部につゆつきが発生することがあります。つゆつきがなくなるまでお待ちください。

3:　画像が撮れない。

3-1: メモリーカードが入っていますか？

3-2: 操作モードダイヤルは撮影モードに設定されていますか？

3-3: カードのメモリー残量はありますか？撮影する前にいくつかの画像を消去してください。

4:　液晶モニターに画像が出ない。

4:　液晶モニターが [OFF] になっていませんか？

5:　液晶モニターがまぶしかったり、暗かったりする。

5:　液晶モニターの明るさを正しく調整してください。

6:　内蔵フラッシュが発光しない。

6:　フラッシュが閉じていませんか？フラッシュオープンレバーを上にスライドさせて、フラッシュを出してください。

7:　液晶モニターの表示、または画像がフォーカスされない。

7:　撮影モードダイヤルを回して、被写体までの距離に応じたモードにする。

8:　再生できない。

8-1: メモリーカードが入っていますか？

8-2: メモリーカードに再生できる画像はありますか？

8-3: 操作モードダイヤルは再生 [▶] に設定されていますか？

9:　テレビに画像が出ない。

9-1: テレビと正しく接続されていますか？確認してください。

9-2: テレビはビデオ入力モードに設定してください。

10: パソコンに接続して画像を転送できない。

10: パソコンと正しく接続されていますか？確認してください。

11: 時計がリセットされている。

11-1: 本機を長期間放置されると、時計がリセットされることがあります。「時計を設定して下さい」の警告が出ますので、再度時計の設定をしてください。

11-2: 時計設定をしない状態で撮影されますと、[2002. 1. 1 0:00] の日付が記録されます。

仕様

電源	DC 9 V
消費電力	3.5 W(液晶 ON 撮影時) 2.7 W(液晶 OFF 撮影時) 2.4 W(再生時)
カメラ有効画素数	3.9M 画素
撮像素子	1/1.76 型 CCD　総画素数 401 万画素、 補色フィルター
レンズ	光学 3 倍ズーム f=7-21 mm(35 mm フィルムカメラ換算:33-100 mm)/F2.0-2.5
デジタルズーム	最大 2 倍(可変)
フォーカス	コントラスト検出　オート / マクロ スポット AF 切替え
撮影範囲	オート:30 cm- ∞、マクロ時:6 cm(W 端時)/ 20 cm(T 端時)-50 cm
シャッターシステム	電子シャッター連動メカニカルシャッター
連写撮影	4 コマ / 秒　最大 8 コマ(スタンダード)/ 最大 4 コマ(ファイン)
動画撮影	320 × 240 画素、10 コマ / 秒　音声付き
ISO 感度	オート /100/200/400
シャッタースピード	オート撮影 / プログラム AE(ISO オート)時: 1/8-1/1,000 秒 プログラム AE(ISO 固定)/ 絞り優先 AE 時: 1-1/1,000 秒 シャッター優先 AE 時:8-1/1,000 秒 動画:1/30-1/1,000 秒
ホワイトバランス	オート / 晴天 / 曇り / 白熱灯 / 蛍光灯 / フラッシュ/ セットモード
露出(AE)	プログラム AE、絞り優先 AE(A)、 シャッター優先 AE(S) 露出補正(0.25EV ステップ、-2 ～ +2EV)
測光方式	評価測光 / スポット測光(スポットモード)
液晶モニター	1.8 型低温ポリシリコン TFT 液晶(11 万画素)
光学ファインダー	実像式ズームファインダー(視度調整付き) (-2.8 ～ +0.8dioptor、視野率 82%)
フラッシュ	内蔵ポップアップ式

フラッシュ（つづき）	撮影範囲（ISO100時）：W端時：約10 cm～4.5 m/ T端時：約20 cm～3.5 m オート / 赤目軽減オート / 強制発光 / 赤目軽減スローシンクロ / 発光禁止
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
記録メディア	SD メモリーカード／マルチメディアカード
記録画素数	2240 × 1680/1600 × 1200/1120 × 840/ 640 × 480/320 × 240（動画）
クオリティ（圧縮率）	TIFF/ ファイン / スタンダード
記録画像ファイル形式	
静止画	JPEG（DCF/Exif2.2 準拠）/TIFF（RGB）、DPOF 対応
音声付き静止画	JPEG（DCF 準拠）+640 × 480 画素 QuickTime Motion JPEG（音声付き静止画）
動画	QuickTime Motion JPEG（音声付き動画）
インターフェース	
デジタル	USB/SERIAL（携帯電話 au cdmaOne/ feelH" 接続用）
アナログビデオ / オーディオ	NTSC/PAL コンポジット（メニュー切り替え）/ オーディオライン出力（モノラル）
端子	
SERIAL	8 ピンジャック
USB	5pin Mini USB
アナログビデオ / オーディオ	Φ2.5 mm ジャック
DC IN	EIAJ タイプ 3 ジャック
寸法（幅 × 高さ × 奥行）	105 × 77 × 65.6 mm（突起部除く）
質量	約 310 g（本体） 約 400 g（メモリーカード、電池含む）

専用 AC アダプター

定格出力	DC 9.5 V　1.0 A
定格入力	AC100-240 V　50/60 Hz
入力容量	21 VA（100 V）、31 VA（240 V）

リチウムイオンバッテリーパック

電圧 / 容量	7.2 V, 1400 mAh

保証とアフターサービス（よくお読みください）

**修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください**

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・
●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）
お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

**保証期間：お買い上げ日から本体１年間
「本体」にはソフトウェアの内容は含みません**

■修理を依頼されるとき
この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書をそえてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、デジタルカメラの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後８年です。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み
修理料金 は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

電話　フリーダイヤル　0120-878-365（パナは365日）

FAX　フリーダイヤル　0120-878-236

365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ナショナル／パナソニック　修 理 ご 相 談 窓 口

北 海 道 地 区

札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎ (011)894-1251	帯広	帯広市西19条南1丁目7-11 ☎ (0155)33-8477	函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎ (0138)48-6631
旭川	旭川市2条通21丁目左1号 ☎ (0166)31-6151				

その他

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

東北地区					
青森	青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712	岩手	盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120	山形	山形市流通センター3丁目12-2 ☎(023)641-8100
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600	宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117	福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

首都圏地区					
栃木	宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555	埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960	山梨	甲府市下飯田2丁目1-27 ☎(055)222-5171
群馬	高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109	千葉	千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034	神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
水戸	水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249	東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780	新潟	新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171
つくば	つくば市花畑2丁目8-1 ☎(0298)64-8756				

中部地区					
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683	長野	松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)58-0073	岡崎	岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
富山	富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	静岡	静岡市西島765 ☎(054)287-9000	岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
福井	福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606	名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225	高山	高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
				三重	久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近畿地区					
滋賀	守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021	大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1 ☎(075)672-9636	奈良	大和郡山市椎木町404-2 ☎(0743)59-2770	兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

中　国　地　区

地区	所在地	地区	所在地	地区	所在地
鳥取	鳥取市安長295-1 ☎ (0857)26-9695	出雲	出雲市渡橋町416 ☎ (0853)21-3133	広島	広島市西区南観音 8丁目13-20 ☎ (082)295-5011
米子	米子市米原4丁目 2-33 ☎ (0859)34-2129	浜田	浜田市下府町 327-93 ☎ (0855)22-6629	山口	山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北 447-23 ☎ (083)986-4050
松江	松江市平成町 182番地14 ☎ (0852)23-1128	岡山	岡山県都窪郡早島町 矢尾807 ☎ (086)292-1162		

四　国　地　区

地区	所在地	地区	所在地	地区	所在地
香川	高松市勅使町152-2 ☎ (087)868-9477	高知	南国市岡豊町中島 331-1 ☎ (088)866-3142	愛媛	松山市土居田町 750-2 ☎ (089)971-2144
徳島	徳島県板野郡北島町 鯛浜字かや108 ☎ (088)698-1125				

九　州　地　区

地区	所在地	地区	所在地	地区	所在地
福岡	春日市春日公園 3丁目48 ☎ (092)593-9036	大分	大分市萩原4丁目 8-35 ☎ (097)556-3815	天草	本渡市港町18-11 ☎ (0969)22-3125
佐賀	佐賀市本庄町大字 本庄896-2 ☎ (0952)26-9151	宮崎	宮崎県宮崎郡清武町 下加納366-2 ☎ (0985)85-6530	鹿児島	鹿児島市与次郎 1丁目5-33 ☎ (099)250-5657
長崎	長崎市東町1949-1 ☎ (095)830-1658	熊本	熊本市健軍本町12-3 ☎ (096)367-6067	大島	名瀬市矢之脇町10-5 ☎ (0997)53-5101

沖　縄　地　区

地区	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0102

愛情点検　長年ご使用のデジタルカメラの点検を！

こんな症状はありませんか	・ACアダプターやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・映像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	DMC-LC40
販　売　店　名	☎（　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　）		

松下電器産業株式会社
AVCネットワーク事業グループ
〒571－8505　大阪府門真市松生町1番4号
システム事業グループ
〒571－8503　大阪府門真市松葉町2番15号

F0302Kz1042(　5000 Ⓑ)

Panasonic デジタルカメラ DMC-LC40 取扱説明書